

第29回 P I 外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年12月2日（火） 午後7時00分～9時00分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：23名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬）、武田 佳登（練馬）、宿澤 藤子（杉並）、土肥 紀久（杉並）
濱本 勇三（武蔵野）、村田 あが（武蔵野）、新 守一（三鷹）、富澤 和也（三鷹）
遠藤 好照（調布）、川原 徳重（調布）、渡辺 俊明（調布）、橋本 妙子（狛江）
江崎 美枝子（世田谷）、栗林 勝彦（世田谷）

地方自治体

菱山 栄二（杉並区部長）、塩沢 忠彦（武蔵野市部長）、新谷 景一（調布市部長）
大川 宗男（狛江市部長）、栗下 孝（世田谷区部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官）、伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）
道家 孝行（東京都外かく環状道路担当部長）、宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約50名

5. 概要：

- ・協議会の基本方針を認識して今後議論して欲しい。
- ・通過交通を最新データに基づき試算。渋滞緩和の実例として、外環（埼玉区間）とパリ環状道路を説明。
- ・時間価値の仮定は、自動車利用者層の現況を踏まえた考え方の議論が必要。
- ・推計した元データや内訳を出して欲しい。
- ・将来交通量予測をどの様にして出していくのか教えて欲しい。
- ・将来交通量の算出方法は、基本的には、本日の説明資料と同じだが、仮定がより複雑になる。
- ・将来交通量の推計値は全国値が公表されており、外環について、道路網の仮定などを関係機関と調整し、今後、算出していきたい。
- ・外環（埼玉区間）の交通量の実績と予測の違いについて、原因を調べて欲しい。
- ・乗用車が外環に流れる分、大型車の環八での交通量が増えるのではないか。
- ・仮定条件の「経路の選択」にあるように最短時間の経路を選択すると仮定している。
- ・高井戸の出入交通のうち、首都高料金を払い外環を利用する車と、直接大泉に行く交通の内訳を知りたい。
- ・自動車専用道路のネットワークとしての議論が必要。
- ・行政は、練馬の交通渋滞の対策をどうするか説明すべき。
- ・シミュレーションで、環八などの交通量が増えるならば、JCTのみの外環を造っても意味が無いという結論になるのではないか。
- ・パリの事例でも、一般道の一部では交通量が増えるというのが実体。
- ・東京IC周辺の交通分析も実施したい。
- ・外環の効果を最大限引き出すためには、どこかにICが必要だと考える。
- ・ディーゼル規制による効果はないのか。
- ・シミュレーションは、条件をしっかりとって、データは示して欲しい。